

行事報告

国際連携溶接計算科学研究拠点第13回講演会の報告

麻 寧緒

国際連携溶接計算科学研究拠点リーダー 教授

2020年12月4日(金)、国際連携溶接計算科学研究拠点(CCWS)は、JWRI オフィス@上海交通大学と連携し、SDGs(持続可能な開発目標)に向けた取り組みとして世の中の関心が高い『マルチマテリアルの接合技術と数値解析』をテーマに設定し、第13回講演会をオンラインにて開催しました。

本講演会の午前中の部で、大阪大学・工学研究科・マテリアル生産科学専攻 廣瀬明夫教授は、「マルチマテリアル接合技術の現状とトレンド」について基調講演を行いました。その後、日産自動車(株)・総合研究所 宮本健二様と(株)神戸製鋼所・技術開発本部 伊原涼平様は、「鋼板とアルミ合金板の抵抗スポット溶接およびその数値解析」と「異種金属接合技術の課題とSPR+接着併用構造部材の評価解析」をそれぞれ講演しました。午後の部では、上海交通大学・上海智能制造研究院 Yongbing Li教授は、「中国における自動車薄板構造の接合技術とト

レンド」について基調講演を行いました。電元社トーア(株)・第一開発部接合技術開発課 佐伯修平様は、「同軸電極を用いたアルミとCFRPの片側抵抗スポット溶接技術と数値解析」に関して講演しました。加えて、本研究拠点 村川英一招へい教授は、「特性テンソル法とJWRIAN-Cpropによるき裂進展解析と疲労寿命予測」に関して研究紹介を行いました。最後に、本研究拠点 麻寧緒教授は、「溶接・接合の残留応力ひずみを予測・測定するソフト JWRIANの開発と応用」について最新の研究開発成果を報告しました。

講演会の休憩時間に本研究拠点と(株)米倉製作所は、オンラインの媒体を活用して、「CCWSが開発したソフトウェアJWRIANの数値解析事例」と「材料試験方法や高精度な試験装置」をそれぞれ技術展示しました。講演会には、57名(国内56名、海外1名)の方にご参加いただきました。